

本校の活動状況報告及び 教育点検システムの点検結果報告書(平成 27 年度)

○ 点検手順と日程

点 検 内 容	日 程
1. 平成27年度運営委員会の構成メンバー等に、各担当部署の現時点までの活動状況について報告書の提出を依頼	2月の運営委員会で予告 2/26(金)依頼 3/25(金)〆切
2. 提出された報告書に対し、本校全体の活動状況を主体に、自己評価WGメンバーがそれぞれコメントを記入	4/1(金)依頼 4/8(金)〆切
3. 提出された全部署の活動状況報告書とそれに対するコメントをまとめ、当該メンバーに返却。各担当部署の年度末までの活動状況について加筆を依頼。その際、他の部署の記載内容も参考に、実施状況の追記や評価の再確認、未記入欄や誤字脱字等については注意を促すなど、必要な修正を依頼	4/15(金)依頼 4/22(金)〆切
4. 自己評価WG長が総括の原案を作成し、自己評価WGメンバーに送付	5/2(月)送付
5. 自己評価WGにおいて、本校の活動状況ならびに教育点検システムが機能しているかどうかについて総括の検討	5月中旬自己評価WG
6. 活動状況報告ならびにシステムの点検結果報告書をまとめ、公表	6月の運営委員会にて公表

○ 総 括

本校では、平成27年度に第3期中期計画を定め、この中期計画をベースに、平成26年度の年度計画および具体的な Plan を策定し、それを実現すべく Do、Check、Action を行い、年度終了後、その活動状況及び教育点検システムの点検・評価を実施した。

次ページ以降に、運営委員会を構成する各部署等から提出された平成27年度における活動状況報告を示す。ここには、各部署の責任者が、自身が関与する項目に対して、PLAN(平成27年度当初の活動方針・活動計画)、DO(実際に行った活動)、CHECK(活動のチェック)、ACTION(チェックをした結果の対応)、ならびに PDCA の点検結果(PDCA サイクルが機能しているかどうか)について自己評価した結果が、その理由とともに示されている。なおそれら(部署ごとの報告書)の前に、本校の第3期中期計画に沿い、全体の活動状況としてまとめ直したものを掲載する。

各部署において判断した PDCA の点検結果では、教育点検システムが「機能している」と判断したのは18部署すべての部署が機能しているとしており、各部署における PDCA サイクルが安定して機能している状況が窺われる。この結果により、本校全体の PDCA サイクルは安定して機能していると判断される。

本校全体の活動状況は、90 の評価項目中、S(年度計画の達成に向け特筆すべき進捗状況である)は 10 項目(11%)、A(順調に進捗している)は 69 項目(77%)、B(やや遅れている)は 10 項目、C(大幅に遅れている)は 1 項目となっている。

平成27年度は、日本学生支援機構(JASSO)による4つの国際交流プログラムの採択、トビタテ！留学 JAPAN 大学・大学院生プログラムに学生1名が採択されるなど、本校におけるグローバル教育の推進が順調であった。また「山口県の産業戦略を支える技術者教育システムの検討」というテーマにより、昨年度、課題として残っていた、学科・専攻科改組の基礎資料となる社会・産業・地域ニーズの把握を行い、これに関するシンポジウムを開催するなど、第3期高度化改革推進 WG を中心に、本校の高度化・改革に向け一歩前進した年でもあった。

一方、入学志願者数の大幅な減少など、将来に向かって懸念される事態も発生しており、入試広報等、質の高い入学志願者の確保には大きな課題を残した。また、高等専門学校機構が策定したモデルコアカリキュラム(MCC)の導入に向け、アクティブ・ラーニングの推進、ICT を活用した教育イノベーション、そのための FD 研修等についてはやや遅れていると判断せざるをえない。

本校の第3期中期計画も既に2年間が経過した。今後、国際社会の動向も踏まえた大局的な見地から、日本の技術者教育の一端を担う本校全体の教育改革の活性化に向け、地域との強い絆を持つ高専としての特色を活かし、地域産業界へのより深い貢献を目指して、学科の再編・コース制の導入等も視野に入れつつ、創設以来40年間以上の長期にわたり続いた教育プログラムをさらに発展させるために必要な努力を続けなくてはならない。

平成28年5月2日
自己評価ワーキング